

東北地方 1か月予報

(12月4日から1月3日までの天候見通し)

平成16年12月3日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

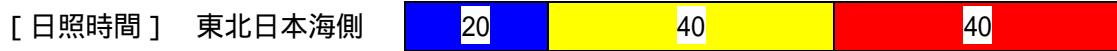
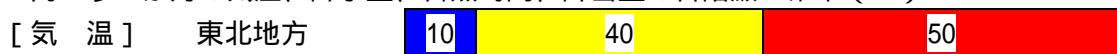
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となります。長続きしないでしょう。平年と比べ、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ない見込みです。

向こう1か月の平均気温は高い、降水量は東北日本海側で平年並か少ない、東北太平洋側で平年並が多い、日照時間は東北日本海側で平年並が多い、東北太平洋側では平年並か少ない、東北日本海側の降雪量は少ないでしょう。

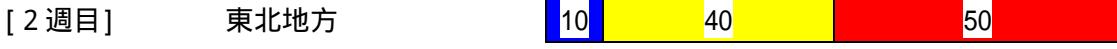
週別の気温は、1週目、2週目は高い、3～4週目は平年並か高いでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 12月 4日(土) ~ 1月 3日(月)

1週目 : 12月 4日(土) ~ 12月 10日(金)

2週目 : 12月 11日(土) ~ 12月 17日(金)

3～4週目 : 12月 18日(土) ~ 12月 31日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は12月10日

3か月予報：12月22日(水) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間、降雪量と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (時間)	降雪量 (cm)	気温()		
					1週目	2週目	3~4週目
大船渡	3.1	37.5	140.6	0	4.7	3.5	2.5
新庄	1.0	209.6	37.2		2.6	1.4	0.3
若松	1.6	84.9	71.9	88	3.0	2.0	0.9
深浦	2.2	124.5	33.4	48	3.6	2.5	1.5
青森	1.0	146.7	54.7	185	2.5	1.3	0.3
むつ	0.9	92.9	73.5		2.4	1.2	0.3
八戸	1.3	41.6	128.0	15	2.9	1.7	0.6
秋田	2.4	157.7	46.7	53	3.9	2.8	1.7
盛岡	0.4	62.5	105.7	45	2.0	0.8	-0.2
宮古	2.7	38.3	151.9	0	4.2	3.1	2.1
酒田	4.0	197.1	42.4	34	5.5	4.3	3.4
山形	2.0	80.8	84.0	69	3.6	2.4	1.4
仙台	4.0	28.6	144.6	15	5.5	4.3	3.3
石巻	3.0	26.8	155.1		4.6	3.4	2.3
福島	3.8	34.7	130.2	23	5.3	4.3	3.2
白河	2.4	26.8	156.0		3.8	2.9	1.8
小名浜	5.8	37.7	184.2	0	7.1	6.1	5.2

なお、気温、降水量、日照時間、降雪量の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはあります、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)	降雪量平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.6	79~104	96~103	60~110
東北日本海側	-0.4~+0.6	91~107	90~106	72~109
東北太平洋側	-0.3~+0.6	65~107	98~104	47~114

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.4~+0.7
東北日本海側	-0.7~+0.7	-0.6~+0.6	-0.4~+0.6
東北太平洋側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.6	-0.3~+0.7

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成16年12月3日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(12月4日~1月3日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と比べ、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は高いでしょう。

1週目(12月4日~12月10日):

気圧の谷が周期的に通過し、東北日本海側では曇りや雨の日が多く、雪の降る所もあるでしょう。東北太平洋側は晴れの日もある見込みです。

平均気温は高いでしょう。

2週目(12月11日~12月17日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と比べ、東北日本海側は曇りや雨または雪の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(12月18日~12月31日):

低気圧が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となりますが長続きしないでしょう。平年と比べ、東北日本海側は曇りや雪または雨の日が少なく、東北太平洋側は晴れの日が少ない見込みです。

平均気温は平年並か高いでしょう。

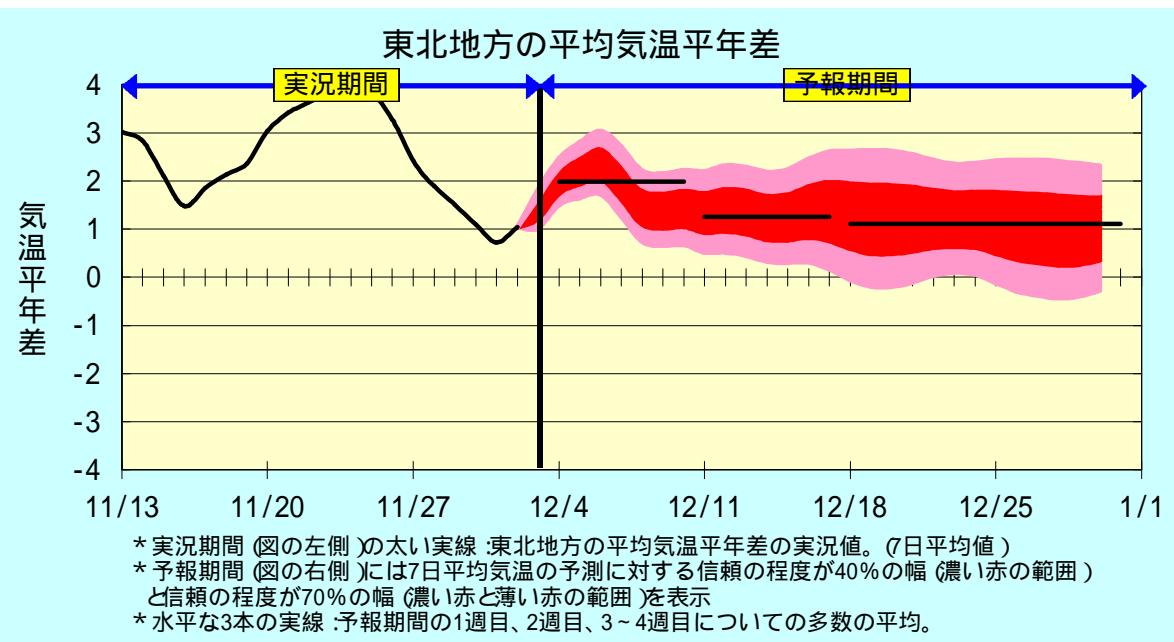
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	4.6日	1.2日	1.0日	2.4日
東北太平洋側	16.9日	4.1日	4.1日	8.7日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目を「高い」と予測している。予報は、その他の資料から3~4週目を「平年並か高い」とする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。

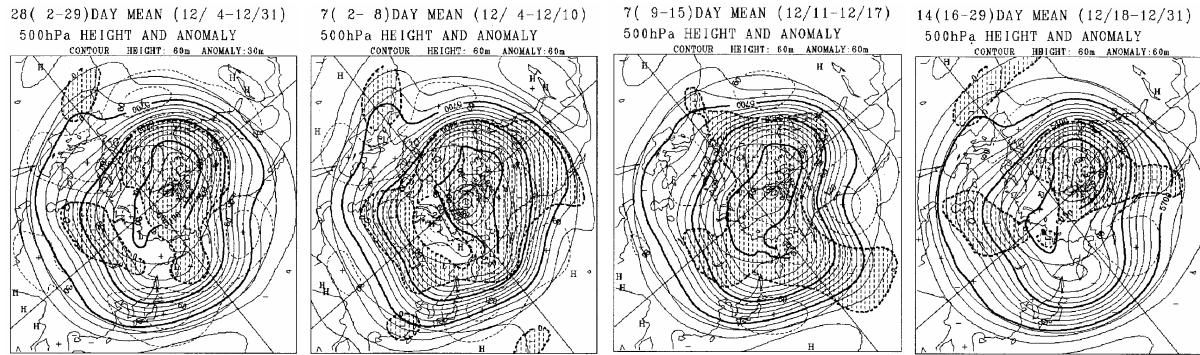


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、日本付近を中心とする強い正偏差に覆われる。偏西風は日本付近で東西流が卓越し、天気は数日の周期で変化して冬型の気圧配置は長続きしない見込み。

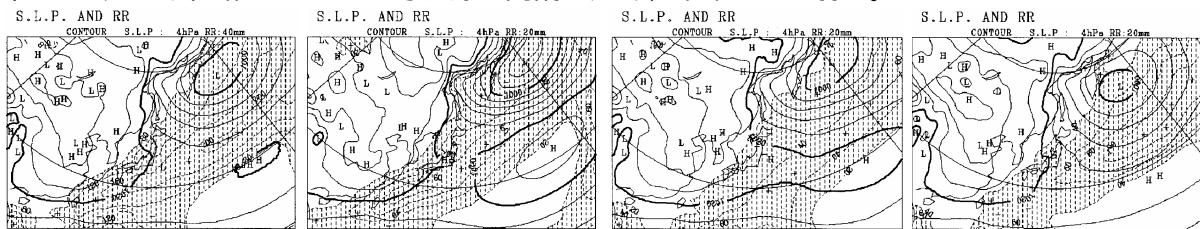
1週目は、日本付近は正偏差に覆われるが中国東岸は負偏差となり（西谷）低気圧の影響を受けやすい。2週目は、極付近が負偏差の中心で寒気蓄積パターン。日本付近は強い正偏差に覆われ、大気の流れも順調で冬型の気圧配置は長続きしない見込み。3~4週目も、日本付近は正偏差に覆われる。



地上気圧と降水量：

月平均では、アリューシャン低気圧は平年より強いが大陸の高気圧は平年より弱い。日本の東海上も高圧部となり、東北地方の冬型の気圧配置は弱い。

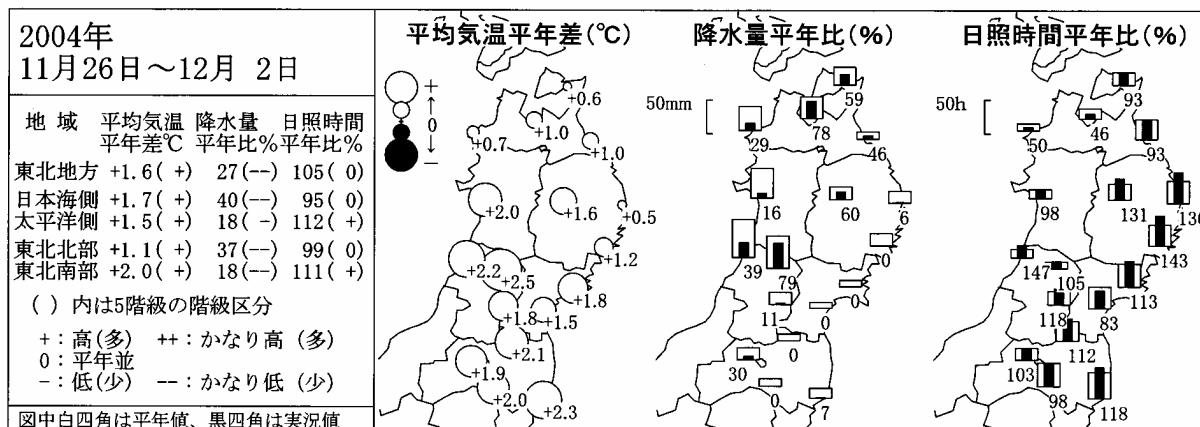
1週目は、日本付近は低圧部となる。低気圧が周期的に通過し、日本付近にはまとまった降水域がかかる。2週目は、日本付近は帯状の高圧部となり、天気は周期変化。3~4週目は、北日本中心の冬型の気圧配置となるが等圧線の間隔は広く、平年よりも弱い。



4. 最近1週間（11月26日～12月2日）の天候の経過

この期間、26日に日本海を北上した低気圧は27日には千島近海で台風並みに発達した。このため27日は冬型の気圧配置が強まり、各地で記録的な暴風となり、停電や交通障害などの被害が発生した。また、平年よりも遅い初雪や初氷を観測する所があった。その後も冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では曇りや雨となった所が多く、東北太平洋側では概ね晴れた。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)